

二酸化炭素貯留適地の調査事業

資源エネルギー庁資源・燃料部
石油・天然ガス課

令和5年度予算額

5.5 億円 (5.5 億円)

事業の内容

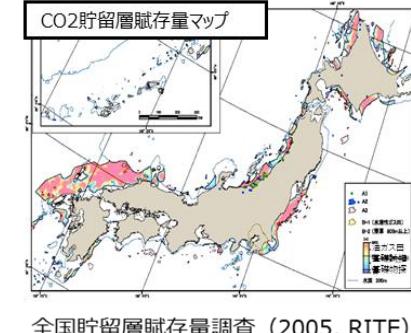
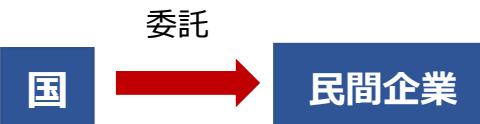
事業目的

CCS（二酸化炭素回収・貯留）技術は、大気中へのCO₂の排出量を削減する抜本的な方策として、IEA報告書（令和2年（2020年））において、世界のカーボンニュートラル達成時における累積CO₂削減量の約2割を担うことが期待されています。国内には約2,400億トンのCO₂貯留ポテンシャルがあると推定されていますが、あくまでも基礎データのみからの推定であり、個々の地点の貯留ポテンシャルを特定するためには詳細調査が必要です。このため、CCSの令和12年（2030年）の社会実装を見据えて、我が国における二酸化炭素貯留ポテンシャルが期待される地点を探査し、CCS実用化に必要な基盤の整備を目的とします。

事業概要

令和5年度の事業では、大きな貯留ポтенシャルが期待される評価地点の継続調査に加え、より総合的な観点（ポテンシャル、経済性、社会受容性、地理的条件等）の調査を行います。

事業スキーム（対象者、対象行為、補助率等）



成果目標

CO₂貯留層ポテンシャル調査・評価の継続に加え、経済性・社会受容性等の調査を行い、総合的な観点からCO₂貯留に適している地点を明確にすることを目指します。